



米国穀物レポート コーン・大豆

2016年9月13日

TOCOM認定商品アナリスト(石油、オプション)

日本テクニカルアナリスト協会

検定アナリストCFTe

玉川博一

9月発表USDA需給報告

概要と分析

出所: 米国農務省



アナリスト証明

本レポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本レポートに示した意見は私の見方を正確に反映しています。本レポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性、信頼性に関する責任を負いません。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っていますのでご留意下さい。執筆者の報酬は、このレポートの推奨や見方によって、現在、過去、未来にわたって一切影響を受けません。また当社、岡安企業グループが行ったいかなる投資案件とも本レポートとは関係ありません。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。

とうもろこし (Corn)

9/12 USDA発表

2016／17年度米国コーン ()内は前月見通し

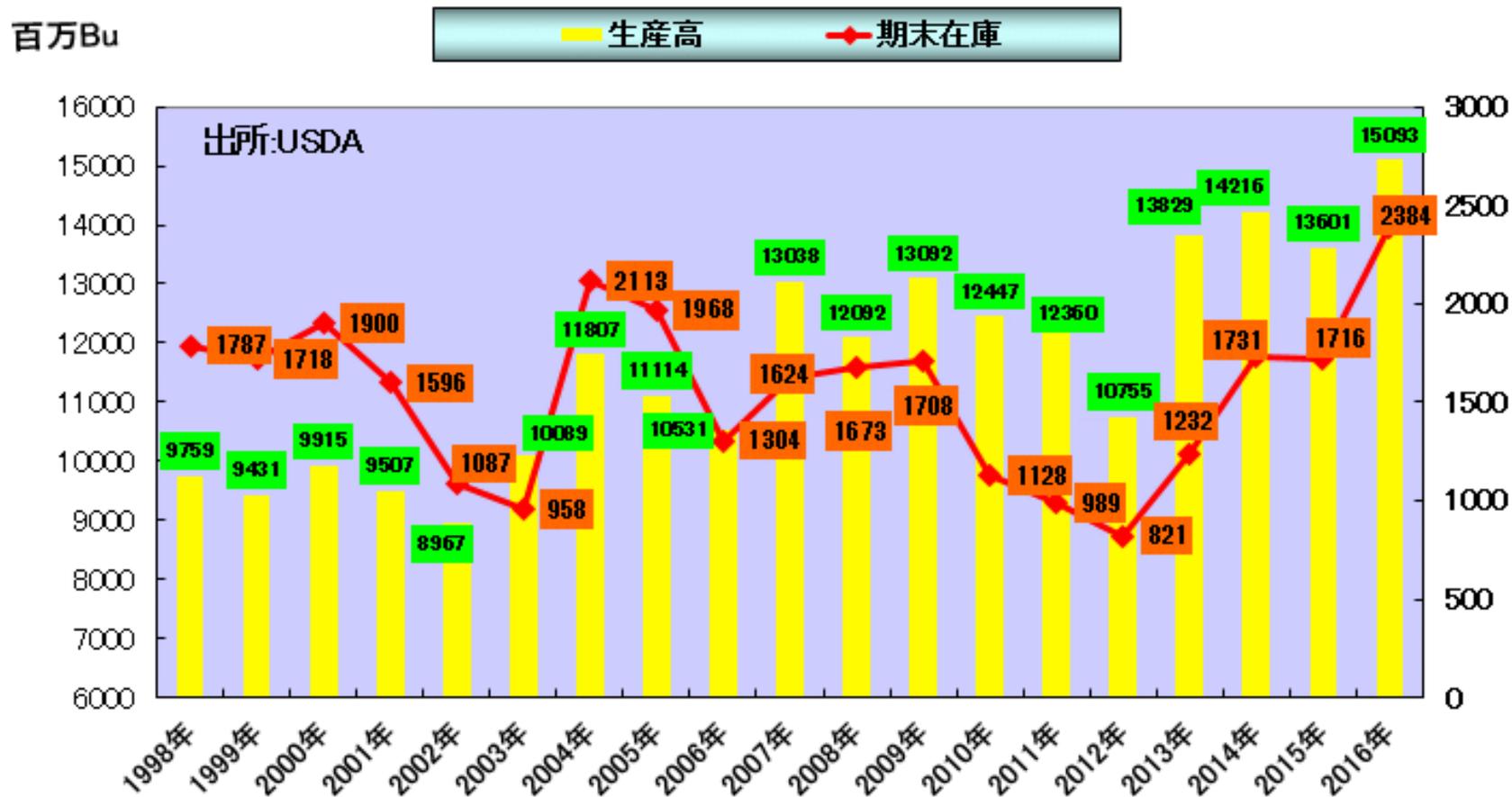
| | | | |
|----------|---|-------------|-----------------|
| 作付面積 | : | 9414.8万エーカー | (9414.8万エーカー) |
| 収穫面積 | : | 8655万エーカー | (8655万エーカー) |
| 単 収 | : | 174.4Bu | (175.1Bu) |
| 期首在庫 | : | 17億1000万Bu | (17億0600万Bu) |
| 生 産 | : | 150億9300万Bu | (151億5300万Bu) |
| 輸 入 | : | 5000万Bu | (5000万Bu) |
| 供給合計 | : | 168億5900万Bu | (169億0900万Bu) |
| 飼料、その他 | : | 56億5000万Bu | (56億7500万Bu) |
| 食品・種・工業用 | : | 66億5000万Bu | (66億5000万Bu) |
| 内エタノール | : | 52億7500万Bu | (52億7500万Bu) |
| 輸 出 | : | 21億7500万Bu | 21億7500万Bu) |
| 消費合計 | : | 144億7500万Bu | (145億0000万Bu) |
| 期末在庫 | : | 23億8400万Bu | (24億0900万Bu) |
| 在庫／消費率 | : | 16.5% | (16.6%) |

コーンのイールド、生産高は下方修正ながらも史上最高水準、期末在庫は23.84億Buに下方修正

- 旧穀は輸出の下方修正を受けて期末在庫は1000万Buの上方修正としました。新穀は、イールド、生産高が前月から下方修正されたものの史上最高の大豊作でイールドが174.4Bu、ロイター予想平均173.4Buを上回りました。生産高見通しは前月から6000万Buの下方修正としましたが、史上最高の150.93億BUと、ロイター予想150.27億Buを上回りました。
- 飼料その他が2500万Bu引き下げられ、新穀期末在庫は、23.84億Buと2500万Buの引き下げとなりましたが、ロイター予想23.29億Buを上回りました。

コーンは、史上最高の生産高

米国コーン生産高と期末在庫



主要五大生産州イールド、生産高見通し

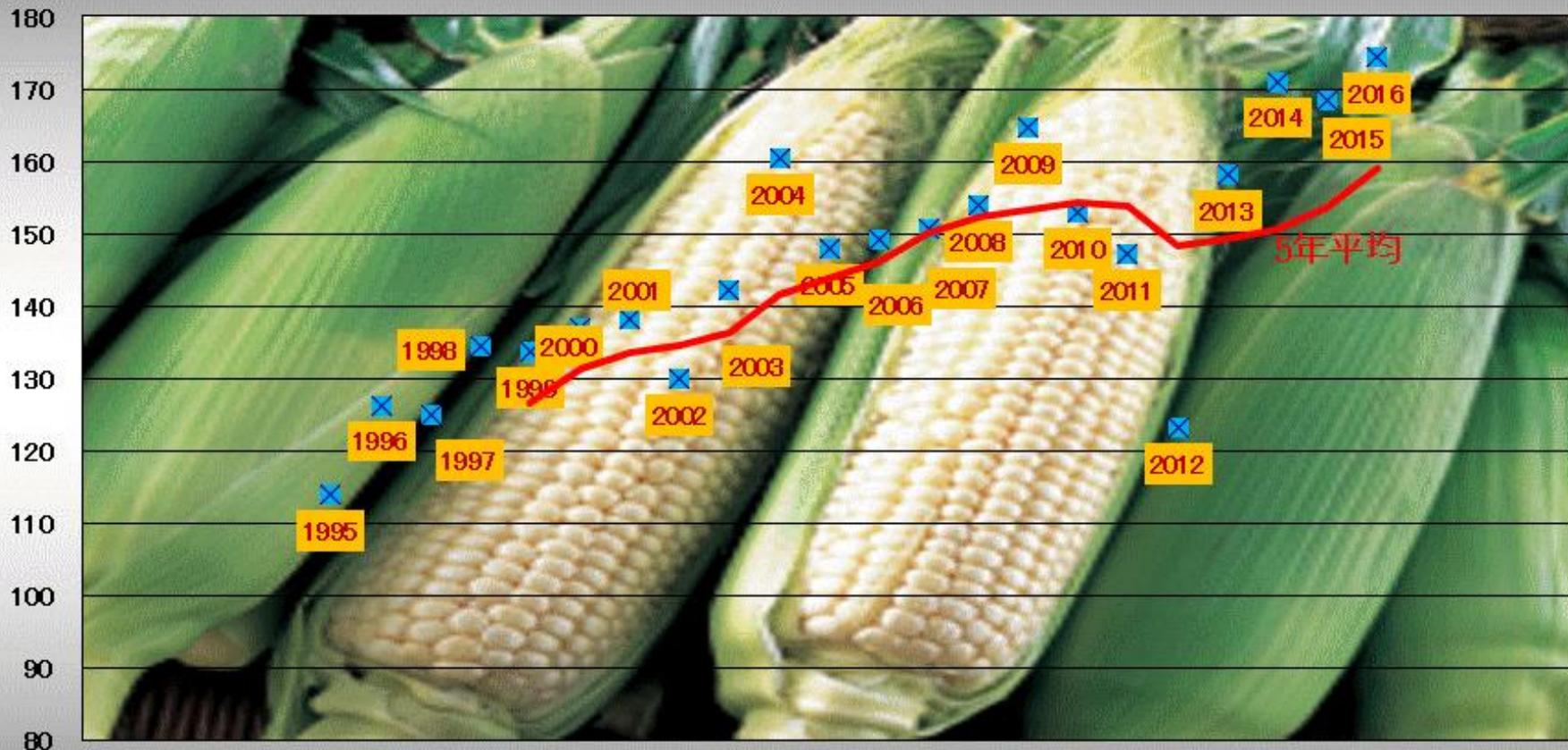
- アイオワ 196Bu(197)、26.65億Bu(26.79)
- イリノイ 200Bu(200)、23億Bu(23)
- インディアナ 185Bu(187)、10.37億Bu(10.49)
- ミネソタ 184Bu(184)、14.72億Bu(14.72)
- ネブラスカ 184Bu(187)、17.29億Bu(17.57)

※()内前月、左イールド、右生産高

コーン単収は、過去最高の174.4Buの見通し

コーン単収推移過去20年

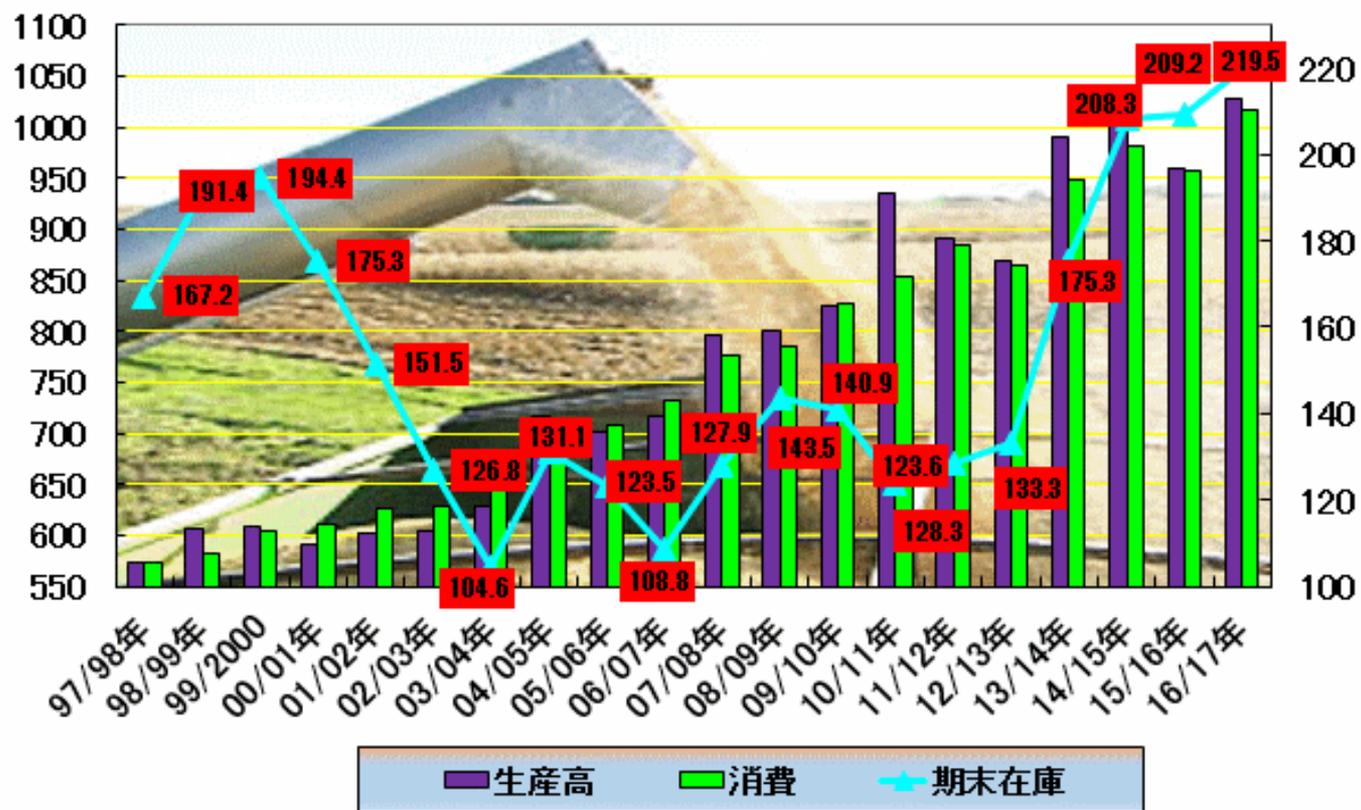
単位Bu/1エーカー



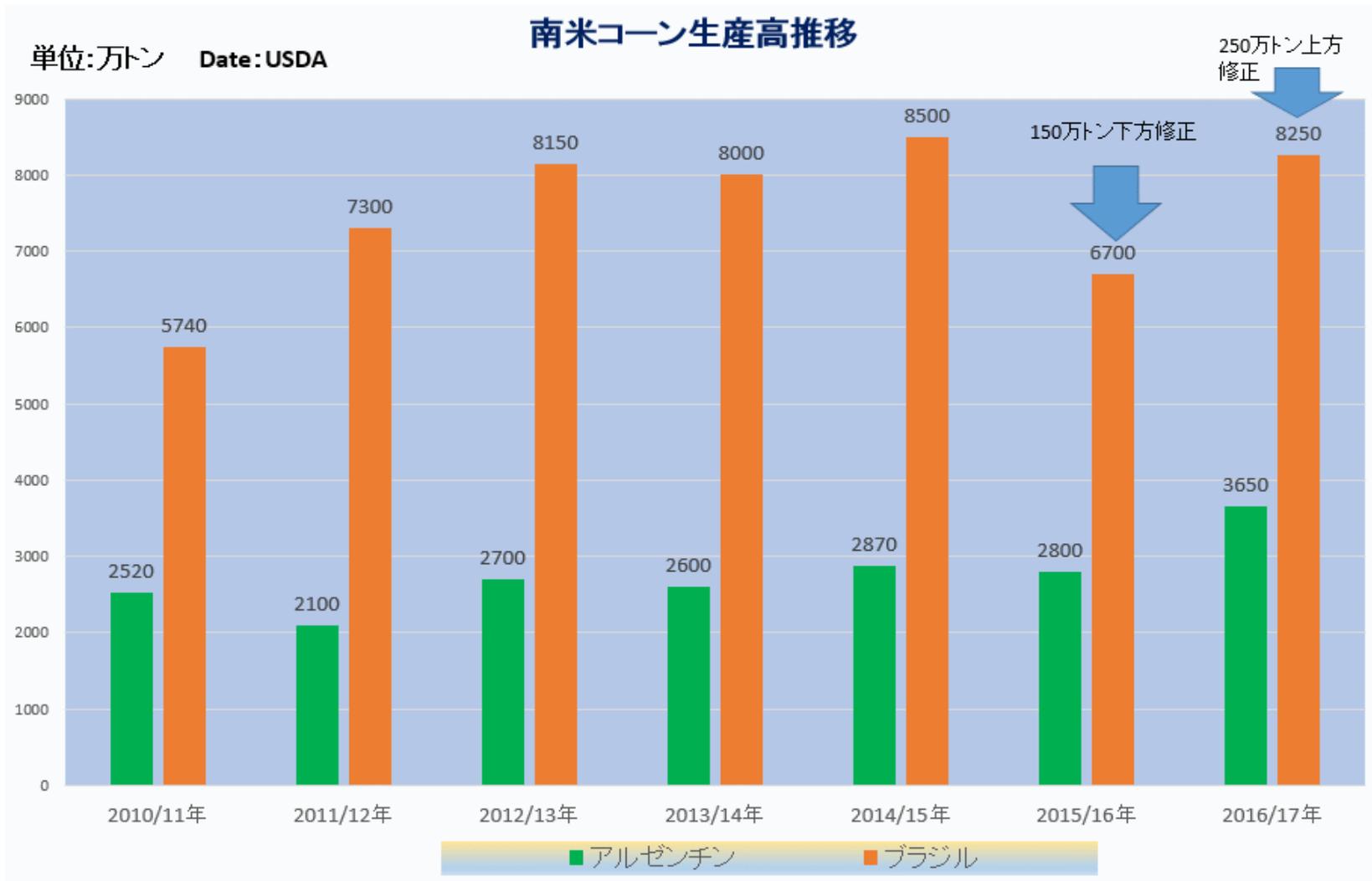
コーン世界需給

世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



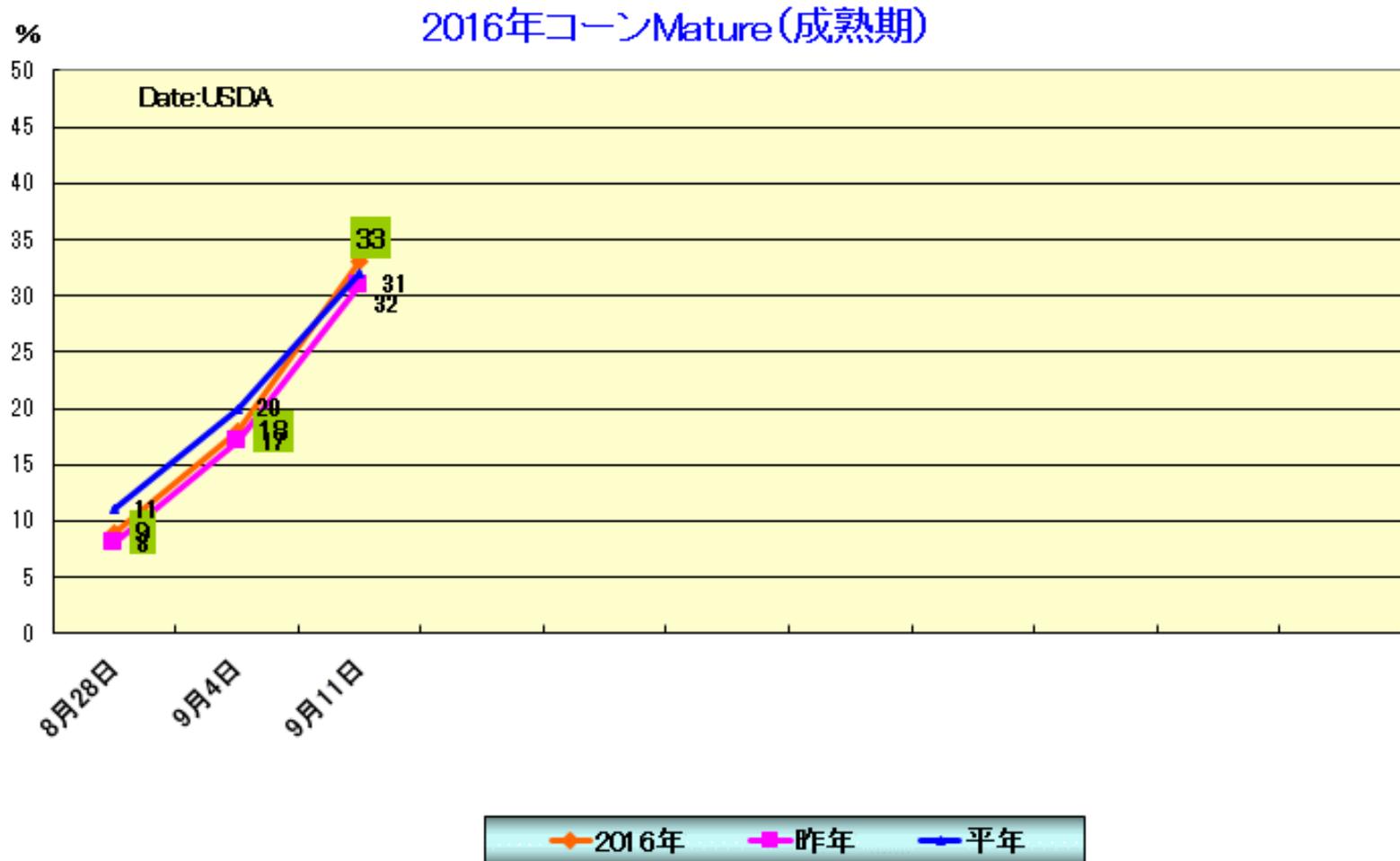
南米コーン生産高推移



世界コーン需給

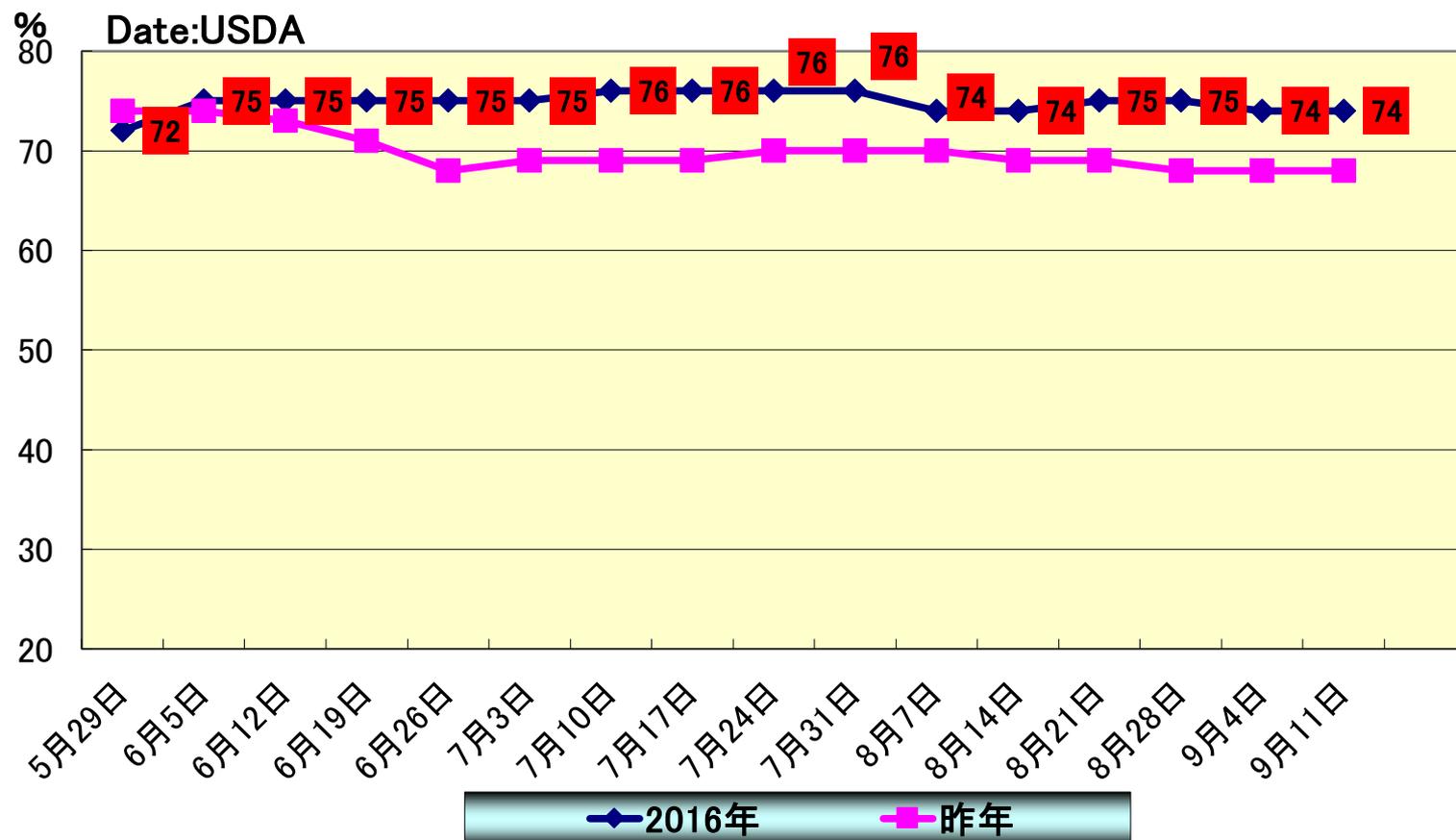
- 2015/16年度世界需給は、世界コーン生産高が9.5902億トンとわずかな下方修正となりました。2015/16年ブラジル生産高は5ヶ月連続の下方修正で前月から-150万トン(6850→6700万トン)の引き下げとなりました。2015/16年世界コーン期末在庫は、前月から179万トン下方修正の2.0925億トンとしました。
- 新穀の2016/17年世界コーン生産高は、欧州が-95万トン(6210→6115万トン)、中国が-200万トン(21800→21600万トン)、ブラジル+250万トン(8000→8250万トン)引き上げられ、10.2661億トンと179万トンの引き下げとなりました。2016/17年世界期末在庫は、2.1946億トンと前月から135万トンの引き下げとなり、ほぼロイター予想平均(2.1935億トン)通りとなりました。
- ブラジル輸出高は、旧穀新穀とも前月から50万トン引き上げ、アルゼンチン輸出高も旧穀新穀とも150万トン引き上げとなりました。

コーン生育ステージは成熟期、収穫始まる。



9/11現在、作柄状況優+良の比率74%
 今年は一度も70%を割ることなく史上最高の大豊作

2016年コーン作柄状況(主要18州)・優+良比率



結論

- 米国、世界とも生産高、期末在庫はやや下方修正されましたが、米国の大豊作、史上最高水準の生産高見通しは変わらず、弱気を覆すことができる数字ではありません。いずれにしろ需給緩和が前年から大幅にすすむ見通しとなっています。イールド、生産高見通しは、ロイター予想平均(イールド173.4Bu、生産高150.27億Bu)を上回り、豊作は織り込んでいるものの弱気の数字と云えます。現状の生育ステージは成熟期末期で収穫が先週から始まっています。現在の作柄状況は9/11現在良以上が74%と全く問題ありません。
- 東京コーン先限は、豊作観測で一時19000円を割り込み8/29には一時18920円まで叩かれ、その後19910円まで反発しましたが、今月は、弱持ち合いとなっています。これから収穫期を迎え、ハーベストプレッシャーが高まってくるものと思われ、基本戻り売りスタンスがベターと思われれます。

東京コーン先限日足



大豆 (SoyBean)

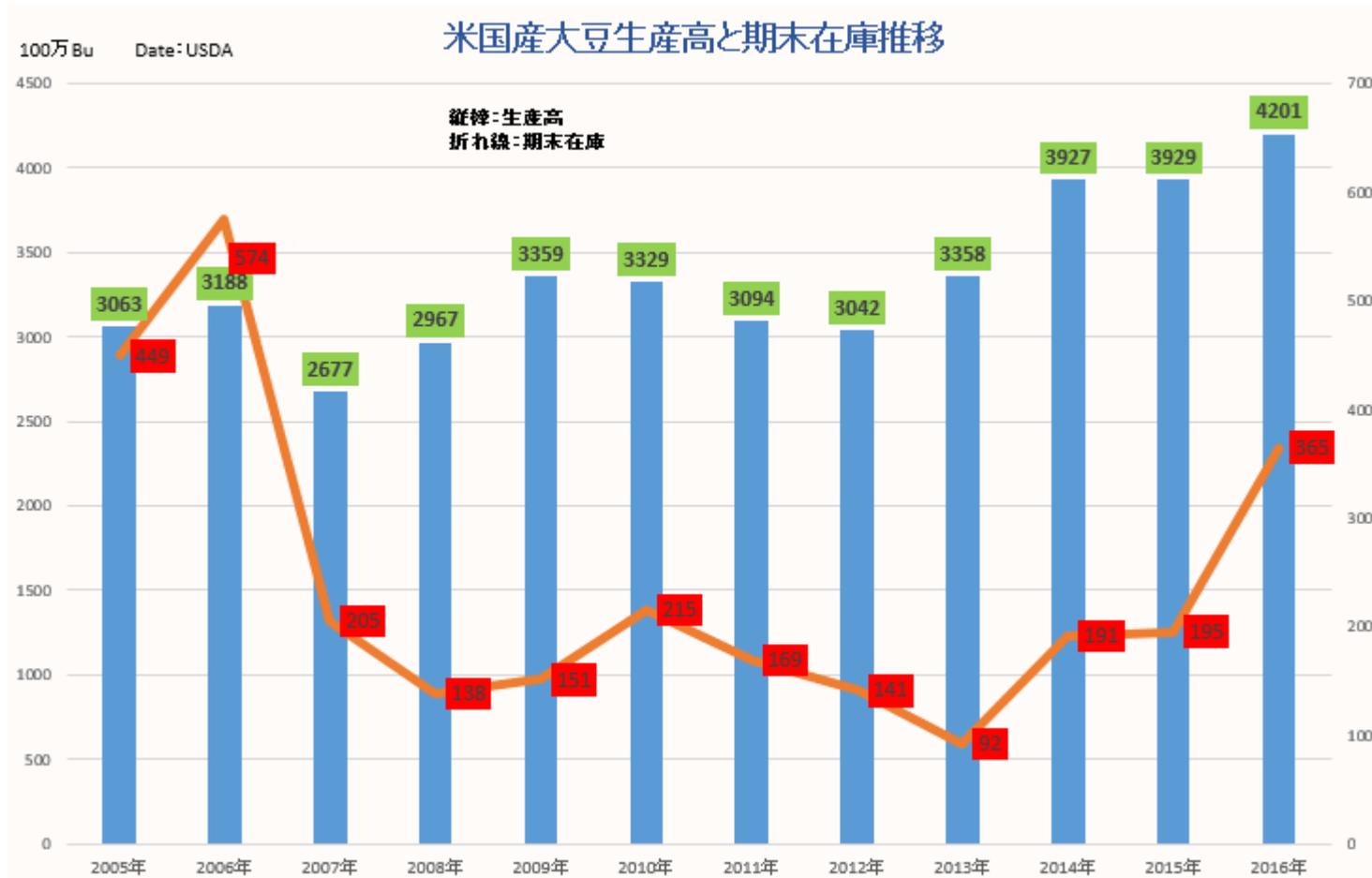


9/13発表USDA大豆需給報告

2016/17年度米国産大豆 ()内前月見通し

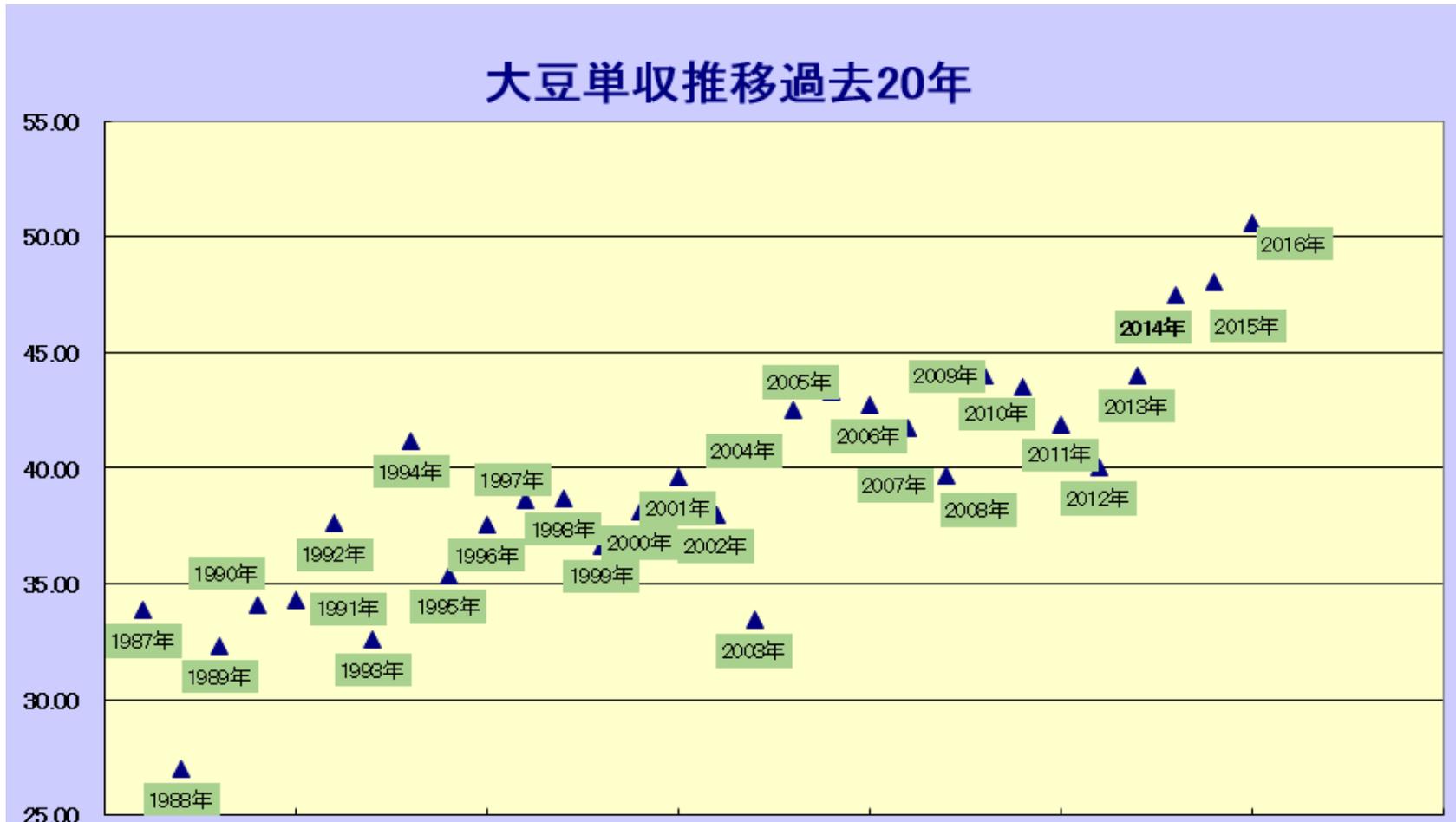
| | | |
|--------|-------------|----------------|
| 作付面積: | 8368.8万エーカー | (8368.8万エーカー) |
| 収穫面積: | 8303.7万エーカー | (8303.7万エーカー) |
| 単収 : | 50.6Bu | (48.9 Bu) |
| 期初在庫: | 1億9500万Bu | (2億5500万Bu) |
| 生産 : | 42億0100万Bu | (40億6000万Bu) |
| 輸入 : | 3000万Bu | (3000万Bu) |
| 供給合計: | 44億2600万Bu | (43億4600万Bu) |
| 圧砕 : | 19億5000万Bu | (19億4000万Bu) |
| 輸出 : | 19億8500万Bu | 19億5000万Bu) |
| 種子その他: | 1億2600万Bu | (1億2600万Bu) |
| 消費合計: | 40億6100万Bu | (40億1600万Bu) |
| 期末在庫: | 3億6500万Bu | (3億3000万Bu) |
| 在庫率 : | 8.9% | (8.2%) |

2015/16年米国期末在庫は、1.95億Buと6000万Buの下方修正。2016/17年期末在庫は3.65億Buと3500万Buの上方修正。



大豆単収推移

2016年は50.6Buと過去最高の前年を2.6bu上回る史上最高見通し

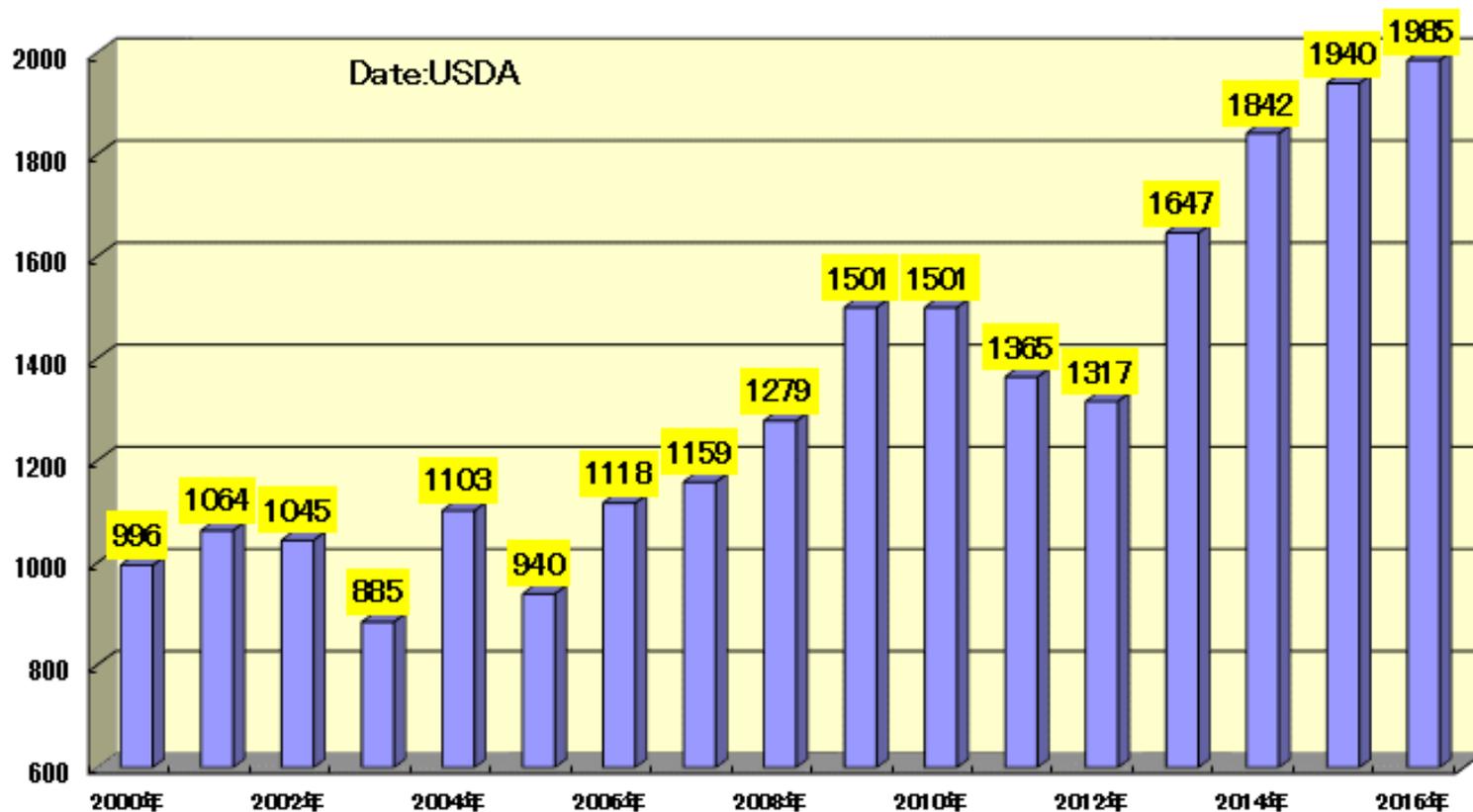


大豆輸出需要推移

旧穀+6000万Bu、新穀+3500万Buの上方修正

米国産大豆輸出需要

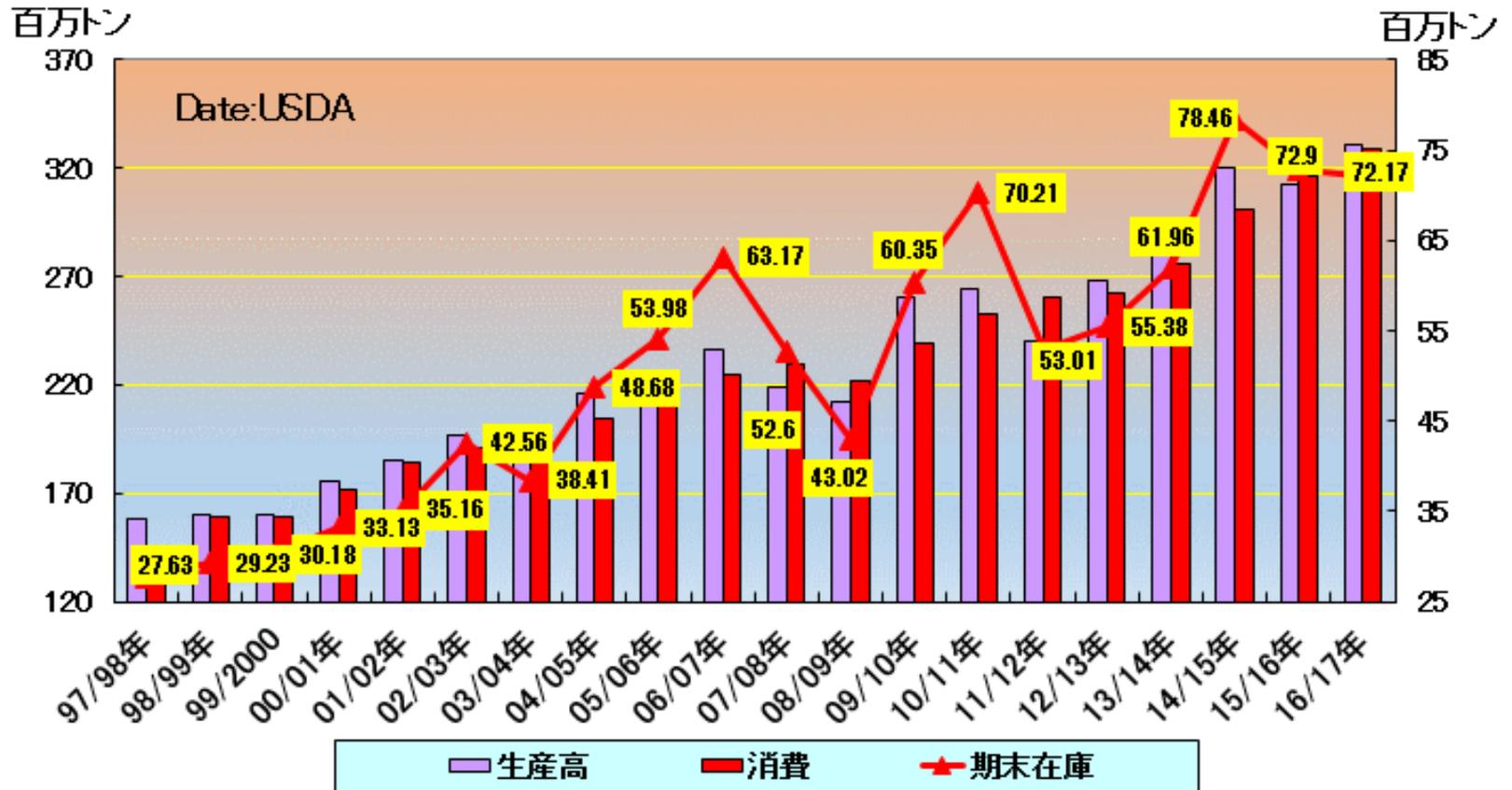
100万Bu



世界大豆需給推移

2016/17年世界期末在庫7217万トンと、92万トンの上方修正。

世界大豆需給



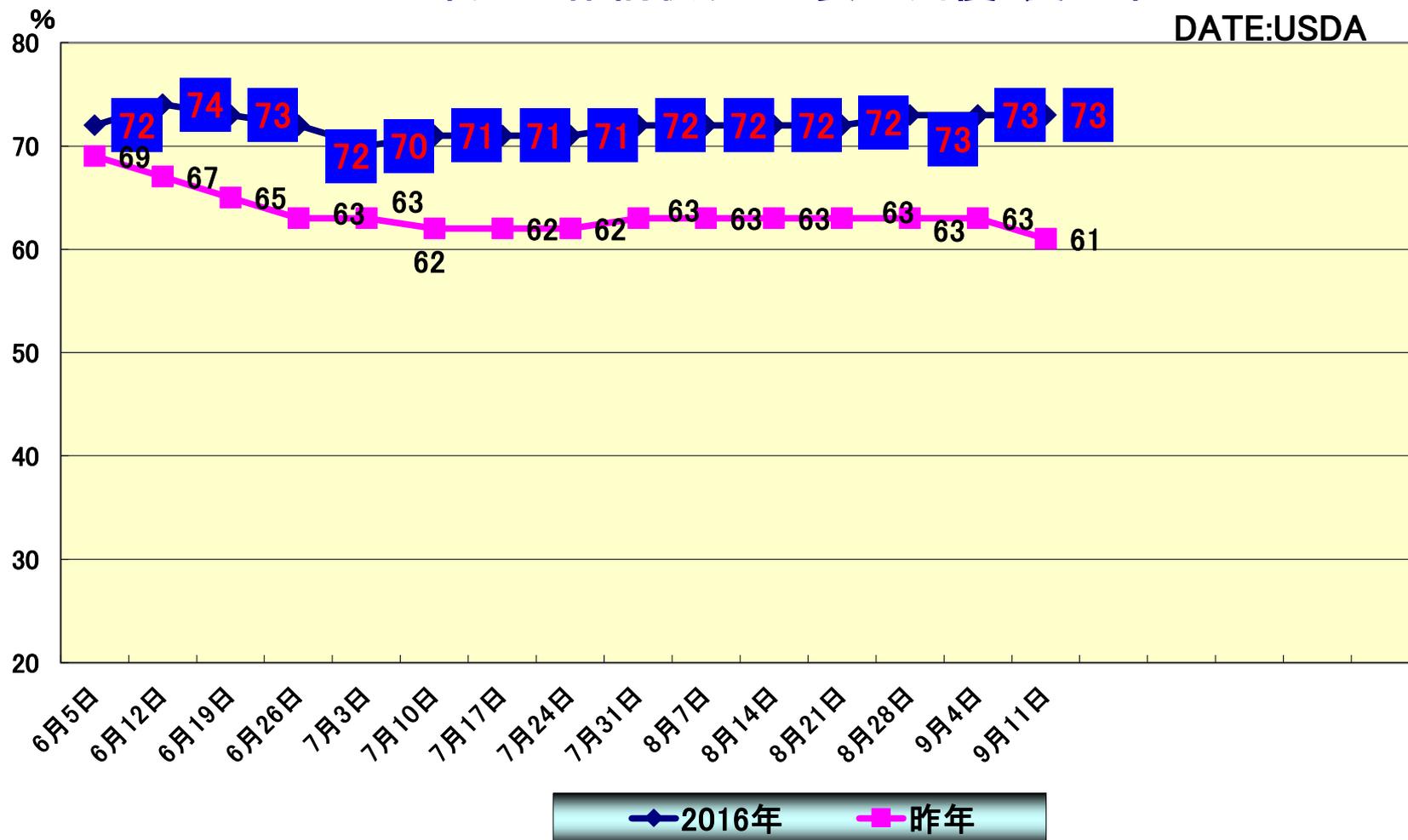
世界大豆需給

- 2015/16年世界大豆生産高はアルゼンチン生産高を30万トン引き上げ、3億1297万トンと30万トンの上方修正となりました。2015/16年世界大豆期末在庫を7290万トンと前月から10万トンの引き下げとなりました。
- 新穀の2016/17年世界生産高は、米国の豊作見通しとブラジル、インドの下方修正が相殺し、3億3042トンと前月とほぼ変わらず。2016/17年世界大豆期末在庫は、前月から92万トン上方修正の7217万トンとし、ロイター予想平均(7037万トン)を上回りました。

大豆作柄状況、良以上73%前年を12%上回る

2016年大豆作柄状況・主要18州優+良比率

DATE:USDA



結論

- 旧穀米国産は輸出需要が6ヶ月連続で上方修正され、旧穀期末在庫が1.95億Buと前月から6000万Bu下方修正されました。新穀輸出も19.85億Buと3500万Bu引き上げられ、割安な米国産輸出は好調ですが、新穀大豆のイールド、生産高ともに予想以上の豊作で引き上げられ、コーン同様過去最高となる見通しです。イールドは前人未到の50bu台となり、生産高は42.01億Buとロイター予想平均40.89億Buを上回りました。新穀期末在庫は3500万Bu上方修正の3.65億Buとロイター予想(3.3億Bu)を上回り、弱材料。世界需給はほぼ予想通りで材料にならず。
- 8/1から9/8までの平均輸出価格は、米国ガルフが411.54ドル/トン、ブラジルパラナグアが424.58ドル/トンと13ドルほど米国産の方が割安ですが、米国産の割安感がやや薄れてきています。
- 東京一般大豆先限は8/4に41300円まで叩かれた後、反発局面となりましたが、44000円が上値抵抗となっています、予想以上の豊作で再度売り出発となるでしょう。

一般大豆先限日足

再度下値探りへ。



トレンドラインなどには執筆者の主観がはいつていますのでご留意ください。

商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

・お客様相談窓口

大阪本社管理部

TEL:0120-346-492

東京統括店管理部

TEL:0120-182-461

・商品先物取引苦情相談センター

日本商品先物取引協会(東京)

TEL:03-3664-6243

- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高160,000円、最低9,000円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
- ・損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約8倍から約60倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によっても異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
- ・損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成28年9月1日現在)